

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	居場所がない子ども・若者の居場所事業（リスクの高い若年女性向けシェルター運営）
団体名	特定非営利活動法人ダイバーシティ工房
所在地	千葉県市川市
事業の概要	コロナ禍での休校期間を経て家族・学校生活が不安定になり、生活困窮・虐待・DVなどで家庭で暮らせない若年層が増えているが、その中でも特に性被害に遭いやすい10代～20代の女性が安心して利用できる一時保護・宿泊場所が不足している。この課題に対し、若年女性専用のシェルターを開設し、安心安全な生活環境を提供するとともに、相談支援・生活支援・就労支援などを通じて、当団体の他事業含め生活保護など必要な公的・民間の社会資源に繋げる。当団体が運営する無料LINE相談事業から問い合わせを受け付ける他、関係機関や地域に広く周知します。また類似事業に取り組む団体と協力し地域全体での若年層の支援強化を目指す。
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	10,000,000円（直接事業費：10,000,000円／管理的経費：0円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での課題やターゲットの設定が明確であり、緊急性も高い事業であると評価する。 ・シェルター運営の実績があるので、是非ともそのノウハウを活かしていただくとともに、無料LINE相談事業や関連機関からの受け入れの強化と、公的・民間社会資源へのつなぎをしっかりと行い、その後のフォローに注力して頂きたい。 ・よい取組なので、連携団体との連携を強化し、波及効果を高めてほしい。 ・あわせて、助成期間終了後も継続できる人件費と家賃の確保を、検討してほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	地域と連携した貧困脱却のための自立支援（見えない壁を打ち壊すために）
団体名	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 J ワールド
所在地	千葉県松戸市
事業の概要	実績と経験を活かした新たなチャレンジとして、コロナ禍で特に支援が必要な貧困家庭に主体的にアウトリーチする。学校長からの委託を受け、新松戸地区小・中学校各1校に行なうアンケートを入り口に必要家庭の支援に入る。地域に幅広く認知される場所に、20名を目安とした社会的距離が確保できる。「すくすくサポートセンター」を開設し、当法人事業（大家族体験や異年齢交流）と総合連携し、学習・運動・食生活も含めた基本的な生活習慣の習得の支援を通じて子どもの生きる力を養い、親の生活や育児・精神的不安の軽減を図る。対面に加え、オンライン支援を積極的に活用して支援の幅を広げるとともに、接点を増やし早期回復を目指す。
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	9,014,200円（直接事業費：9,014,200円／管理的経費：0円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・既に学校との連携実績があり、新たな拠点をつくることによる継続性、地域連携に期待する。 ・自己資金分は寄付金を充当するということだが、しっかり寄付を募り、安定的な資金確保を目指してほしい。 ・事業計画では、拠点において生活習慣の習得支援をするとのことだが、感染拡大した時の対応方法について検討してほしい。 ・貧困世帯に偏見や差別があり孤立するのであれば、そのような人たちを対象としたサポートセンターの機能を高め、フルに発揮してほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	キッチンカーでGO！（～どこでもこども食堂&暮らしのサポート～）
団体名	特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブういず
所在地	千葉県柏市
事業の概要	キッチンカーを多目的に活用してこども食堂やおおぞらカフェを開催し暮らしのサポート（生活支援総合事業）につなげていく。町会の集会所、高齢者施設などに車両を停車して、こども食堂ではフードパントリー、飲食の提供や学習支援、おおぞらカフェでは飲食の提供とともに困りごとの相談サービスも展開していく。ICTを活用した情報の受発信システムをプログラムし、キッチンカーを核とした地域の見守り、パーソナルなお困りごとの相談窓口として稼働させながら、孤独から生じる地域課題の解決に早期に繋げる。
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	8,597,760円（直接事業費：6,901,220円／管理的経費：1,696,560円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーを購入することで活動範囲が広がり、新しい試みができるという事業内容を高く評価する。 ・固定の場所での食堂運営と異なり、ニーズがある場所における「居場所づくり」という、利用者目線に立ったアイデアを評価する。 ・キッチンカーの移動先において、見守りや子ども食堂など新たなチャレンジを発信し、より地域に入り込んだPRと理解促進につなげてほしい。 ・あわせて、週5日の稼働が可能なのか、子どもと高齢者が混ざって問題がないのか、真冬や真夏の対応はどうするのか、ボランティア主体の運営が可能なのかなど、実現性を重視した検討を熟考してほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	仕事や住まいを無くした人の地域定着支援（ひとりにさせない伴走型支援）
団体名	特定非営利活動法人生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会
所在地	千葉県市川市
事業の概要	<p>相談事業を充実させ、居住支援を行い、伴走型の支援を行っていく。具体的には、以下の通り。</p> <p>1. 電話やメールによる相談 2. 夜間・深夜パトロールの実施；アウトリーチの拡充 3. 事務所での来所相談・アセスメント後サポートプランをたてる 4. シェルター提供</p> <p>5. 就労相談（無料職業紹介事業所） 6. 居宅確保支援（サブリースや他物件紹介） 7. 家賃債務保証の提供 8. 生活保護申請・行政同行支援 9. 課題解決のためのつなぎ支援（債務相談等）</p>
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	3,000,000円（直接事業費：3,000,000円／管理的経費：0円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・公的機関との密接な協力体制と既存事業の実績を高く評価する。 ・今回はコロナ禍における緊急事業であることから、特に新型コロナの影響による課題の把握とその対処に重点を置いてほしいと考える。 ・そのうえで、減額とはなるが、「サブリースの5室を増やす」ことで、貴団体の目指す成果の実現に取り組んでほしい。 ・その際は、緊急性を要するので、冬期前の居場所の確保を是非お願いしたい。 ・あわせて他の民間団体との連携も推進されることを期待する。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	新型コロナにより住居を失った人の支援事業（シェルターの運営と地域への定着）
団体名	企業組合労協船橋事業団
所在地	千葉県船橋市
事業の概要	船橋市、習志野市の生活困窮者自立支援機関および千葉県の中核地域生活支援センター事業（習志野圏域）と連携し、現在、生活困窮者向けのシェルターが無い船橋市、習志野市にシェルター事業を立ち上げ、住まいを失った人の一時的な居所を提供する。シェルターの施設は、民間の元寮施設（男性用）の借り上げ、および一軒家（女性用）の借り上げを予定しています。また、入居者に対して当法人として就労支援（職業訓練や就労体験）や居場所の提供など、孤立しがちな生活困窮者を地域につなぐ活動を行う。その他、シェルターの共用部分清掃や管理業務などについては、生活困窮者の就労準備支援事業としても取り組む。
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	9,990,000円（直接事業費：9,528,930円／管理的経費：461,070円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の背景となる課題把握が十分なされており、団体の実績から見ても実現性の高い事業となっており高く評価される。 ・アウトリーチや就労、生活支援へのつなぎの部分が確保され、助成事業終了後の出口戦略、設計図がよく練られている。 ・本事業の実施にあたっては、一時生活支援事業として実施されるよう、船橋市、習志野市への働きかけを是非実施してほしい。 ・また、団体として様々な事業を行っているので、事業の運営を滞りなくかつ来年度以降を見据えて実施してほしい。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

【新型コロナウイルス対応緊急支援】

地域連携型アフターコロナ事業構築

事業名	コロナ禍を乗り越え、共生社会をめざして（住民と専門職とがつくる互助センター）
団体名	NPO法人ケアラーネットみちくさ
所在地	千葉県柏市
事業の概要	新型コロナウイルス感染拡大により、高齢者や認知症の方とその介護家族の孤立やフレイルが深刻化している。外出が難しくなった今、カフェでの食事や相談だけでなく、有償ボランティアとして、その人たちが自分らしく生きがいを持って暮らせる支援をし、栄養士や理学療法士、看護師などの多職種が連携して自宅へ訪問できるようにする。また、感染予防対策が整ったフレイル予防ができる場所、いつでも専門職へ相談できる場所として互助センターを設立する。互助センターには、いつでもだれでも立ち寄れ、専門職がいて、なんでも相談でき、必要時行政への橋渡しや他の専門職へつなぐ。そして何より本人と家族が中心のチームをつくり、支えていく。
事業期間	2020年10月～2021年9月30日
助成予定額	9,398,040円（直接事業費：9,298,040円／管理的経費：100,000円）
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、認知症患者、認知症介護者の居場所事業の実績が豊富で、協力体制も確立されている点を高く評価する。 ・短期間で規程類も整え、公開している点も評価する。 ・事業費のほとんどが建物の増築に充てられているが、拠点の整備が活動の拡大と継続につながり、利用者の増加につながることを期待できる。この点が高く評価されたので、是非、新しい拠点をベースに、事業の継続と拡大をお願いしたい。 ・また、拠点をもとに目標値に掲げた数字を達成するとともに、まちづくりとともに持続的に発展していくことを期待する。 ・個人資産の増築となるので、増築部分は法人登記し、法人の資産として維持管理していくことが条件となる。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。